16　　急な遷都の嘆き 　　　　　　　　　　　　助動詞①　き・けり

また、治承四年水無月のころ、にはかに都遷Ⅰ侍りき。いと思ひの外なりしことＡなり。おほかたこの京のはじめをア聞けることは、嵯峨の天皇の御時、都と定まりにＢけるより後、すでに四百余歳を経たり。ことなるゆゑなくて、たやすく改まるべくもあらねば、これを世の人イ安からＣず憂へあへる、げにことわりにも過ぎたり。されど、とかくいふかひなくて、帝よりⅡはじめ奉りて、大臣公卿みなことごとく移ろひ給ひＤぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとにウ残りをらむ。官位に思ひをかけ、主君のかげを頼むほどの人は、一日なりともとく移ろはＥむとはげみ、時を失ひ、世にあまされて、期するところエなきものは、憂へながらオとまり居り。軒を争ひし人の住まひ、日を経つつ荒れゆく。家はこぼたれて淀河に浮かび、地は目の前に畠とカなる。

【本文チェック】

①　ア～カの用言の、活用の種類（動詞は活用の行も）・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　活用　　　　形）　　イ（　　　　　活用　　　　形）

　ウ（　　　　　活用　　　　形）　　エ（　　　　　活用　　　　形）

　オ（　　　　　活用　　　　形）　　カ（　　　　　活用　　　　形）

②□Ａ～Ｅの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を書きなさい。

　Ａ（　　　　　・　　　　　形）　　Ｂ（　　　　　・　　　　　形）

　Ｃ（　　　　　・　　　　　形）　　Ｄ（　　　　　・　　　　　形）

　Ｅ（　　　　　・　　　　　形）

③傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、書きなさい。

　Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　　）

　Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　都遷〔１〕（　　　　　　　　　）

２　公卿〔５〕（　　　　　　　　　）

３　官位〔６〕（　　　　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　こと（殊）なり〔３〕（　　　　　　　　　　　）

２　ことわり〔４〕　　　（　　　　　　　　　　　）

３　こぼつ（こほつ）〔８〕（　　　　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　同じほど、それよりの更衣たちはましてやすからず。（源氏物語）

　ア　簡単でない　　イ　美しくない

　ウ　楽しくない　　エ　心穏やかでない

　（　　　）

２　何をもちて、とかく申すべき。（竹取物語）

　ア　何にしても　　　　イ　さらに

　ウ　あれやこれやと　　エ　反対に

　（　　　）

３　十月になりて京にうつろふ。（更級日記）

　ア　色あせる　　イ　心変わりする

　ウ　移り住む　　エ　訪問する

４　には、とくおりなむといそがるる。（枕草子）

　ア　早く　　　　イ　とっくに

　ウ　その外に　　エ　何度も

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| けり | き | 基本形 |
| （　　） | （　　） | 未然形 |
| ○ | ○ | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
| ○ | ○ | 命令形 |
|  |  | 意味 |

問５　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　さやうの人の祭り見しさまいとめづらかなりき。（徒然草）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　片時もまかり遅れじと思ひしかども、（うつほ物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　泣きぬ笑ひぬぞし給ひける。（平家物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

４　人もなきしき家は旅にまさりて苦しかりけり（万葉集）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　朝廷に仕える貴族のうち、三位以上の大臣、納言、参議、および四位の参議のことを「公卿」または「上達部（かんだちめ／かんだちべ）」という。

　　　四・五位の者、および六位の蔵人のうち、清涼殿「殿上の間」に上がること（昇殿）を許された者を指す語を、次から一つ選べ。

ア　殿上人

イ　地下

ウ　御息所

　（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝カ行四段・已然（命令）　イ＝ク・未然　　　　ウ＝ラ行変格・未然

　　エ＝ク・連体　　　　　　　　オ＝ラ行変格・終止　カ＝ラ行四段・終止

②　Ａ＝断定・終止　Ｂ＝過去・連体　Ｃ＝打消・連用

　　Ｄ＝完了・終止　Ｅ＝意志・終止

③　Ⅰ＝ございました　Ⅱ＝はじめとし申し上げて

問１　１＝みやこうつり　２＝くぎょう　３＝つかさくらい

問２　１＝特別だ　２＝道理・当然のこと　３＝壊す

問３　１＝エ　２＝ウ　３＝ウ　４＝ア

問４　（き）　　せ ｜ ○ ｜ き ｜ し ｜ しか｜ ○　　　　 意味＝過去

　　　（けり）　けら ｜ ○ ｜ けり ｜ ける ｜ けれ ｜ ○　意味＝過去・詠嘆

問５　１＝過去・連体形　２＝過去・已然形

　　　３＝過去・連体形　４＝詠嘆・終止形

問６　ア

【現代語訳】

問３　１　同じ身分、（または）それより低い身分の更衣たちはいっそう心穏やかでない。

　　　２　何をもって、あれやこれやと申し上げることができようか。

　　　３　十月になって京に移り住む。

　　　４　夜明け前には、早く退出してしまおうと気がせかれる。

問５　１　そういう（田舎者の）連中が（賀茂の）祭りを見たときの様子は実にめずらしいものであった。

　　　２　片時も後に取り残されまいと思ったけれども、

　　　３　泣いたり笑ったりしなさった。

　　　４　妻（＝人）もいないがらんとした家は、旅にもまさっていっそう苦しいことだった（なあ）。